

- 16:40 ラーマ1世の対清外交 (東京大学大学院) 増田えりか
17:20 阮朝硃本と大南寔録 — 1885年の記述をめぐって (東京大学) 桜井由躬雄
18:30 懇親会
6月5日(日)

シンポジウム<東南アジアにおける地域秩序の変遷>

- 9:20 問題提起 総合司会 (東京大学) 末廣 昭
9:30 アジアの「地域協力」構想と日本 — その歴史的展開
..... (筑波大学) 波多野澄雄
10:10 米中ソとインドシナ半島 — 1950年代の地域秩序形成
..... (鈴鹿国際大学) 木之内秀彦
10:50 ベトナム戦争終結後の東南アジア —
1970年代の地域秩序形成 (北陸大学) 小笠原高雪
11:30 A F T Aと産業調整 — 1990年代の東南アジア経済
..... (さくら総合研究所) 竹内 順子
12:10 昼 食 (委員会)
13:10 会員総会
13:50 国家形成と地域秩序 — A S E A Nの場合 (東京大学) 藤原 帰一
14:30 総合討論
16:00 閉会の辞 会 長 吉川 利治

自由研究発表要旨

タイ中央部都市土地神信仰の変遷にみる民衆文化変容 —

祠・神体の形態変遷を中心に 加納 寛

本発表は、従来あまり論じられてこなかったタイ中央部の都市部を中心に見られる土地神 (PhraphuumCaothii) 信仰に光をあて、タイ人の土地神観が反映されやすい祠と神体の形態変遷を通して、タイ社会、とくにこのような民間信仰に投影される民衆文化の変化について考察することを目的とする試論である。

タイ中央部における土地神信仰は、一定の土地に常駐しつつ、その土地と、そこに関係する人々と事物を守護する神あるいは精霊に対する信仰であり、いたるところに遍在する小さな土地神祠 (Saan Phraphuum) において祭祀される。特に都市においては、宮殿からスラムにまで見られるきわめて普遍的な信仰である。

人々と土地神との媒介として重要な役割を果たす祠形態に関しては、1950年代以前では一般的であった木製家屋型が、1960年代を通じてコンクリート製仏教寺院建築型に次第に移行し、その後1970年代、80年代を通して王宮建築を模した壮麗なプラーサート型

が一般化していく「家屋型→仏教寺院型→王宮宮殿建築型」という変容過程が浮び上がる。

神体形態に関しては、1960年頃、観念的に比較的低位に位置付けられる神々像が消滅するとともに、ヒンドゥー神話に起源を持つプラチャイモンコン神像が量産されて台頭し、1980年頃からはブラフマーなどのヒンドゥー神像や仏像が出現していく姿が浮び上がる。

こうして、土地神信仰の変遷を祠や神体といった形態面から見ると、仏教信仰や王権のイメージとは結び付かなかった土地神信仰に、仏教的要素が取り入れられ、王宮やヒンドゥーといった王権のイメージと結び付いた要素が浸透していく動きが、1960年前後を起点として存在している。土地神信仰は、華麗さを増し大きさを増しながら、仏教や王権イメージに結び付いた要素を順次取入れ、今日の形態に組み上げられていったのである。



東南アジア都市と日本の中近世港市 — 港市の防衛の意味をめぐって

——— 坂井 隆

考古資料及び絵画資料のある例から、東南アジア都市と日本の中近世港市の特徴を検討した。また関連するインドなど他地域の都市も含めて、特に防衛施設（城壁・土塁・濠など）の意味の比較を試みた。

東南アジア群島部では、ヨーロッパ人来航以前の5例（サンティブラ、ラジャ・ブルシウン、バンテン・ギラン、サムドゥラ・バサイ、プゲン・ラハルジョ）は、15ha以下と全て小規模の面積である。また同期の代表的内陸都市トロウンランは、現在まで判明している限り防衛施設を持っていない。そして防衛対象は、市場の可能性が大きい。

一方、ヨーロッパ人来航以後の港市5例（ポルトガル・マラッカ、ジョホール・ラーマ、バンテン・ラーマ、ジャカルタ、バタヴィア）は、規模が40ha以上と飛躍的に大きくなる。在来の港市から発展した例は、宗教施設・王墓と市場が物理的な中心にあり、権力者の居館の防衛意図は薄弱である。それに対し、ヨーロッパ人の建設した例は、権力者の居館を堅固に防御した要塞（マラッカのア・フォモサ要塞、台湾のゼーランディア要塞など）が必ず備わる。



東南アジア大陸部の城郭14例（コーラオ、チャキウ、オケオ、アンコール、チェンマイ、スコータイ、シーサッチャナライ、アユタヤ、チャイヤー、マンダレー、アヴァ、パガン、シュリー・クシェトラ、ベイトノー）は、多くが圧倒的に大規模で方形の平面形を基本とし、宗教施設またはそれに準じる権力者の居館を中心に置く。それらの宗教施設は、象徴的な境界の意味も込めて隔絶的に防御されている。貿易取引より宗教的権威を重視し、方形平面形や堅固な防衛施設を持つ権力者居館などインドからの影響（シシュパールガル、デリー）がより直接的である。

ヨーロッパ系の港市は要塞を中心に建設することで、南・西アジア（ホルムズ、ディ